

令和3年度カキ養殖概況

池田博明*・山下泰司

養殖規模 令和3年度の漁業協同組合別マガキ養殖状況を表1に示した。全県の経営体数は、前年度から2経営体減少し、132経営体であった。筏台数は、前年度から42台減少し、1,924台であった。

養殖経過 本年度における牛窓沖海水温の年平均偏差の推移を図1に示した。4~9月は平年値との差が-2.1~2.1℃の間で変動した。その後、10月上旬から3月下旬は平年値との差が-1.2~1.7℃で推移した。

カキ養殖漁場39定点におけるクロロフィルa量の平均値は、抑制期(4~9月)は7.4μg/Lと、平年値(5.3μg/L)を上回り、特に6月下旬から7月上旬で値が高かった。また、養成期(10~翌3月)は3.4μg/Lと、平年値(3.3μg/L)並みであった。

本垂下は主に4月上旬~5月下旬の間に行われ、沖出しは9、10月に、生産は10月下旬~11月上旬の間に例年どおり開始された。成育状況は、生残個体数が平年より多く、かつ、生産当初から身入りが良好な状態が続いた。これは、8月中旬~9月下旬の海水温が平年値より低く、抑制期の斃死が抑えられたことや、秋季に餌料となる植物プランクトンが継続的に発生したこと等が寄与したものと考えられた。

生産結果 生産量は過去5年間で最も多かった平成29年度を上回り、前年度比118%の3,605tとなった(表1)。また、生産金額は過去5年間で最も大きく、前年度比128%の33億円となった。

その他 岡山県漁業協同組合連合会が実施した10月から3月までのノロウイルス検査は、452検体中いずれも陰性であった。

採苗は順調に行われ、日生町、伊里、邑久町、牛窓町漁協で7月下旬に始まり、8月中旬には予定枚数が確保された。

今期は、新型コロナウイルスまん延の影響により、外国人技能実習生等、カキむき作業の人員確保が困難となり、一部でむき子が不足する状況が見受けられた。これにより、生産時期の終了が例年より遅くなる産地があった。

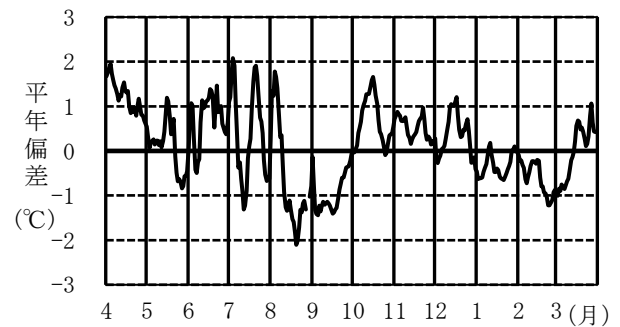


図1 令和3年度における牛窓沖海水温の年平均偏差の推移(平年値は1991~2020年の平均)

表1 マガキ養殖状況(令和3年養殖年度)

漁協名	経営体数	筏台数	沖出し時期 (月/日)	生産時期 (月/日)	生産量	
					むき身(t)	対前年度比(%)
日生町	41	456	10/12 - 10/20	11/ 4 - 4/30	1,640	121
伊里	5	40	9/27 - 9/28	11/ 3 - 3/13	16	81
邑久町	60	1,231	9/19 - 10/18	10/28 - 5/20	1,573	111
牛窓町	5	84	9/29 - 10/ 1	11/ 4 - 4/11	153	170
寄島町	16	86	10/11 - 10/17	11/ 1 - 5/20	198	144
笠岡市	5	27	10/ 7 - 10/30	11/10 - 6/10	25	100
合計	132	1,924	9/19 - 10/30	10/28 - 6/10	3,605	118

* 岡山県農林水産総合センター普及連携部普及推進課